

Ready Steady Go! Ready Go JAPAN!!



レディー・ステディー・コー！
レディー・ゴー・ジャパン！！
月刊WEBマガジン
第5号 2009年7・8月合併号
発行：R G J チーム事務局
編集：事務局・須藤むつみ
※掲載内容の無断転用を禁止します。



上写真：ブルターニュレースでトップ集団に位置をキープするエドウイッチャ・ピテル（中央）
左下写真：伝説の女子選手ジャンニ・ロンゴが、RGJチームジャージを着る日が来るとは！
右下写真：ブルターニュレースでのRGJチーム、左より明珍・松田・堀・ロンゴ・ピテル

実録! フランスレース遠征の現場

日本人二名が完走を果たしたツール・ド・フランスが日本でこなわれていた、同じフラン西国内で、女子国際自転車競技連合（U C I）公認ステージレースが二つ開催された。このレースにReady Go JAPANの活動を支援する法人「N P O 法人サイクリスト国際交流協会」の企画によりReady Go JAPANインターナショナル（以下 R G J）として堀友紀代と松田千裕、さらに、日本学生自転車競技連盟（以下、学

連)より推薦を受けた明珍翁子(朝日大学)の三選手が、身初の海外遠征に挑戦した。レースに関するレポートについては月刊サイクリング(十月号)九月二十日に八重洲出版より発売)で四ページに渡り特集されるので、そちらをぜひ、ご覧いただくとしてこちらでは「現場のウラ話」をお伝えしたいと思う。

七月十三日早朝、成田空港に集合。成田からの出発は握と松田の両選手と事務局の須藤むつみ。そして別便で遠征

監督の市川雅敏氏（Vite
s sel Ichikawa）
の四名。一方、学連推薦の朝
日大・明珍選手は名古屋の中
部国際空港から一名での出発
となる。フランスは日本との
時差がマイナス八時間。その
ため飛行機には十三時間も搭
乗するが、フランスのシャル
ル・ドゴール空港（CDG）
には十三日の夜七時ごろには
到着した。

地元記者にフランス語で対応する市川遠征チーム監督。氏の明るい雰囲気は選手を勇気づける

ヒドウイッチと、あとは
・・え? !」ソリにあひた
は「Jeannie Longo-Ciprelli
の名前。なんぶハヤハリ・

督を通じて、各選手に「こ
すると、もつとよくなる」
か、「体重を少し絞れば、
年後には十分に戦える」な

ンゴ選手！思わずメンバー表を手に、その場にへたり込んでしまった。何ということ！女子自転車競技史上に燐然と輝く大記録を樹立し続け、今も現役の「伝説の選手」がRGJチームに合流するというのだ。その様子に主催者のCUNY氏は、私に「してやつたり！」という笑顔を見せた。最高のサプライズに感謝！十六日から、いよいよTour

であったが、事前に日程が後ろに一日ずれていたため、この日は時間が多少ある。そこで小さいレンタカーを大きい車種に借り替えるため、数軒レンタカー社をまわって、ようやく大きい車種に変えることが出来た。午後からはパリ市内から陸路でブルタニコはGUITINGAMP（グンガム）まで約五時間移動した。

十五日はレース受付。集合場所である教会の敷地内には地元フランスはもちろんのこと

と、欧州各国からチーム車が集まっている。中にはU.C.I.公認女子チームもいくつか登場。そこを市川監督が切り込んでいって、様々なチームスパンで、ツッフと挨拶を交わす。フランス語にイタリア語、英語、しまいにはドイツ語まで出てくる氏のコミュニケーション能力に日本から来た三選手も刺激されて、つたないながらも積極的に笑顔で挨拶。この最初のツカミが良かつたようで、この後のレース中にも様々なチームに助けてもらったり情報を交換できることに繋がった。

立つ。日本選手三名は、毎日百km近くを走るレースを運命にこなしていく。その一生懸命で真摯な姿勢は欧洲他のチームにも印象的であったようだ。毎年、

A collage of three photographs. The top left shows a bicycle leaning against a tree. The bottom left shows a woman smiling. The bottom right shows a close-up of a person's face.



「ルターニュそしてリムザンにも参加していたスペインのUCI公
共選手ナゼレ 口本園に一ヶ所壁」